

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第10号
2022年12月12日
編集・文責 吉成正士

11月に入り、環境問題SDGsに続いて防災学習を始めました。その仕上げに、お家の方に聞き取ったことを参考に、「二つのふるさと」という資料に思いを寄せて、学年全体での人権学習を行いました。みなさんにした質問は次の4つでした。

1. それぞれのクラスでしてきた学習について思ったこと、気づいたこと、考えたことについて語り合しましょう。また、お家の人から聞き取った災害や被災支援の経験などについて発表してください。
2. 「二つのふるさと」の恵子は、結局どうしたと思いますか。あなたならどうしますか。
3. 自分にとって大切な人や場所と離れる、別れるとはどういうことだと思いますか。
4. 「生きる」とはどういうことだと思いますか。みなさんの周りの人はどんなふうに生きていますか。あなたはどうか生きていますか。

特に今回はこれまでと違い、クラスごとに列で並ぶのではなく、クラスの枠を解き、6クラスから一人ずつ、6人で1つの班になって活動をしてもらいました。「今回は初めて他のクラスの人と班になって、最初は「まったく知らない人ばかりだし嫌だな」と思っていたけど、班になるとたくさんの意見にふれることができたし、班員の人にうなずいてもらって、自信を持って発表する人が増えたと思います。班にすることによって、たくさんのメリットがあるので、次の全体人権学習も班にしてほしいです。…中略…今日、私は心が成長したと思います。次の全体人権学習が楽しみです。ありがとうございました。」(2組TM)

おおむね好評だったようでホッとしました。

さて、今回もみなさんの感想を中心に人権だよりをまとめてみました。



どうぞ読んでみてください。

聞くこと、考えること、変わること

■今日の防災学習で、災害に体しての意識が変わりました。理由はみんなの発表を聞いたからです。

プリントの3番「自分にとって大切な人や場所と離れる、別れるとはどういうことだと思いますか。」で、僕はこれをネガティブに捉えていたけど、みんなは、「別れることは成長すること」や、「新しい自分を見つけたり、新しいものに出会えること」と言っていて、すごいなと思いました。

先生が言っていたように、日常的に防災について考えていれば、人権について考える機会にもなるし、備えられると思います。なので、どこかで災害が起きたときに、怖いなあや、嫌だなあと他人事に思わず、真剣に考

えようと思いました。こうやって考える人が増えれば、差別もなくなっていくんじゃないかなと思いました。

(4組OS)

ネガティブに捉えること自体は、悪いことではないように思います。それだけ真剣に受けと



め、考えようとしているということでしょうから。それに何より良かったのは、みんなの発表を聞いたことではないでしょうか。人が変わるきっかけはいろいろですが、自分の周りの人がどんなふうに受けとめ、考えているのかを知ること、自分に影響を与えてくれます。そうして自分が揺さぶられながら、新しい自分をつくることができます。人の話を聞くこと、そしてしっかり考えること、それができることが大切なのではないかと思います。

一人だけでなく、助け合い乗り越えること

■差別などは日常に出てくるのではなく、差別や偏見は非日常に出てくることから、自分の気持ちが現実を追いついてないときに起こるのかなと思いました。自分の気持ちに余裕を持つことで、差別などもなくなるのではないかと思います。

吉成先生が言っていた映画「あん」についての話では、人のせいにするだけではなく、自分も変えることが大切だと感じました。この話については、日常でも使えると思います。いじめられた時に、相手は悪いが、自分を変えてみることで、挑戦してみることも良いと思いました。

「生きる」という意味についてですが、班の人、全体で様々な意見がありました。人を支えることや、選択をすることなど、人によって意見は違いましたが、私の「生きる」とは、大切な人に出会い、乗り越えていくことだと思いました。「生きる」とは、幸せだけではなく、自然災害や病気など、幸せと同じくらい悪いこともあると思います。それを、一人だけではなく、助け合いながら乗り越えて成長することを、「良い生き方」と言うと考えました。

(4組HM)

その通り！差別などの醜い感情は、過度なストレスやプレッシャーがかかったとき、自分の中の差別意識と結びついて、「他人にぶつける」という形で起こっていきます。それがいじめであり差別です。

確かに余裕がないと、人のことなんて考えられないかもしれません。でもまれに、自分のことを置いておいても、人のことを考えたり、人に尽くすことができる人がいます。まずは自分の中に「心の防波堤」を築いて、差別意識に侵されないようにすることです。

また、「出会い」の大切さを述べてくれています。 「出会い」は一瞬です。けど、一瞬であるにもかかわらず、自分の中に一生残り

続ける「出会い」もあるもの（のこ）です。それは、「乗り越えていく」というよりも、「遺り（のこ）続けていく」ようなものではないでしょうか。そんな「出会い」があるからこそ、一見マイナスのように思える出来事も、プラスに変えられるような気がします。つまり、自分を形作り成長させてくれるのは、「人との出会い」ということになるのでしょうか。

でも、どの「出会い」が大切ななんて分かりません。一見どうってことない「出会い」が、「運命の出会い」だったりするかもしれないわけです。それは誰にも分かりません。だから、そんな「出会い」を見過ごしてしまわないように、どの「出会い」も大切にします。それを、一期一会（いちごいちえ）と言います。

映画「あん」のなかで、3人の主人公のうちの1人、元ハンセン病患者・徳江さんが、残りの2人に残した言葉。

「私たちは、私たちには、生きる意味があるのよ」

そんなふうになんて思えない人生でなかったかと思えます。家族とも、故郷とも引き剥がされ、名前も、生きることも否定され、そんな人生のどこに、「生きる」意味を見出せばいいのか。無理にそう思おうとしているのかもしれませんが。でも本当にそう思っているのなら、そこには、仲間との「出会い」や、短いながらも2人との「出会い」があったから、そう思えるのかもしれませんが。やはり、分かり合える、許し合える、支え合える、そんな固い絆で結ばれた仲間の存在が、「生きる」ことに意味を持たせてくれるのではないのでしょうか。そんな仲間を私たちもつくっていきませんか。そんな仲間になっていきませんか。

「生きる」ことは、誰かの支えになること

■僕は今日、この人権学習を通して、いつ大きな地震がくるか分からないので、またどうすべきなのかを考えようと思いました。いろいろな人の意見を聞いて、あらためて防災について考えようと思いました。

僕は、東日本大震災の時はまだ幼かったので当時の状況は分からないけど、僕の親はテレビで東北地方の状況を見て、本当にこんな災害が起こるんだと衝撃を受けたそうです。

また、拉致問題で行方不明になった横田めぐみさんは、僕と同じ13歳で行方不明になってしまいました。めぐみさんの父、滋さんは、めぐみさんに会えずに亡くなってしまいました。僕も災害で大切な人と別れることになったりした時は、いつ会えるか分かりません。別れると、とても悲しいです。「生きる」ということは、誰かの支えになっているということです。「生きる」ことは、楽しいことがあったり、悲しいことがあったり、いろいろなことがあります。吉成先生が言っていたように、「自分の身



は自分で守る」と言うけれど、「誰一人取り残さない」ということを一人一人がして、助け合えるようにしたいと思いました。（6組AR）

「質問3」で、資料「二つのふるさと」の恵子さんに重ねて、拉致問題の横田めぐみさんのお話をさせてもらいました。大切な人と別れる、離れるということは、どういうことなのか。めぐみさんのお父さん、滋さんの故郷は、ここ八万町であり、八万小学校のみなさんからすると、大先輩です。どこか遠くのここのように見ていた拉致問題が、グッと近づいた気がしませんか。だとしたなら、どこか他人事のように見ていたということです。

いろんな物事を他人事ではなく、自分事として見ることの大切さ。当たり前のように身近にあるもの、人、場所が、突然離れたり、別れたり、そういうことがあるということです。恵子さんは、そんなことをみなさんに問いかけてくれています。

横田めぐみさんのお父さん、滋さんが、亡くなるまで、ずっと会いたくて、会いたくて、会いたくて、それでも会えずに逝った、娘めぐみさんへの想い。気持ちを切り替えて前を向く、なんてこと、できるはずありません。滋さんは小学校で札幌に転校していったので本校に進学してはいませんが、日ごろからみなさんが見ている風景を、滋さんも見ていた（なが）ということです。そう思って身近な風景をあらためて眺めてみると、他人事ではいられなくなるかもしれません。

実は、もう一つ考えなければならないことがあります。それは、「純粋な自然災害に被災する」ことと、そうではない、「人為的な災害に被災する」ことの違いです。地震や津波に直接被災したならば、それは純粋な自然災害であり、「仕方ない」と思えるかもしれません。でも、主人公の恵子さんにしても、横田めぐみさんにしても、そうではありません。それは原発や拉致によって引き起こされた事件であり、「仕方ない」ものではないからです。明らかに人間が引き起こしたことです。であるならば、防ぐこともできたはずで



す。つまり、私たち人間は、もっと注意深く考え、判断し、行動する必要があるということです。そうしなければ、同じような過ちを繰り返してしまいかねないということです。

「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」

被爆地広島にある、原爆死没者慰霊碑の言葉を思い浮かべます。若いみなさんにとって、未来を思い描くことは大切なことであり、素晴らしいことです。でも、歴史を学ばず未来を思い描けば、同じような過ちを繰り返しかねません。歴史にきちんと向き合い学んだうえで未来を描けば、違った未来が築けるように思います。SDGs 14「質の高い教育をみんなに」は、そんな教育を私たちに問いかけているのだと思います。

（11号につづく）